



営農NEWS



農作物の安全・安心と病害虫防除の技術向上 を図るために 防除日誌を必ずつけましょう

農薬は適正に使用することにより、病害虫や雑草から農作物の被害発生を防止することができ、また、その作物の食品としての安全性を保障することができます。

農薬の使用記録として防除日誌を作成しておきますと、食品としての安全を証明する資料（消費者等から農薬の使用履歴を求められた時や農薬問題などが発生した場合に、適正使用の確認や原因究明など）として役立ちます。さらに、生産者がこれまでに行ってきた防除や管理作業を振り返ることで、防除技術の更なる向上を図ることができるなど、より安全で安心、適切な農作物の栽培を推進することができるようになります。

日誌に記帳する重要ポイント

- 1 防除日誌は圃場ごとに作成することとし、防除実態に合わせたように記録しておきましょう。いつ、どんな作物に、どの農薬を、どれだけの量や濃度（希釈倍率）で、どのように処理したかなど、農薬のラベルに記載されている安全性に関する農薬使用基準の事項は、必ず詳細に記録しておきます。また、耐性菌や抵抗性害虫の発生を抑制するため、農薬のローテーション防除を行う目安として、各薬剤の作用機構分類（FRACまたはIRACコード）を記載しておきます。
- 2 農薬処理時の各種病害虫の発生状況（どのような場所に、どれくらいの発生程度など）や作物の生育、圃場の環境なども、できるだけ詳細に記録しておきます。さらに、農薬処理後における防除効果の判定も、必ず記録して、次の防除の参考にします。これらの情報は貴重な生産者の個人情報で、これらを積み重ねて検討することにより、次の病害虫の発生予測（どの時期に、圃場のどの辺に発生しやすい）や防除計画などの参考になります。
- 3 下記の防除日誌（記入例）を参考に、自分の栽培する対象作物、栽培体系、防除の様相など、まずは自分で実践できる内容や様式を工夫して記録し、継続して試みるのが重要になります。

（参考記入例）

防除日誌（令和〇〇年〇月～令和〇〇年〇〇月まで）

圃場場所 (No.〇)	面積	作物名	播種または定植月日	収穫期間
〇〇地区〇〇番地 (ハウス東側〇棟目)	〇〇 a	□□□□□ 品種：〇〇〇	〇月〇日 播種 〇月〇日 定植	〇月〇日～ 〇月〇日

用途	薬剤名	FRAC 又は IRAC コード	処理方法	希釈倍数	使用量 (10a 当たり)	使用月日	使用目的	処理時またはその前後の状況などメモ	防除効果等 (○×△)
殺菌	□□□ 7077 [®] ル	F:11	散布	2,000 倍	200 ㍓	〇月〇日	〇〇病の防除	ハウス出入口の手前左側から発生、直ちに薬剤散布	○：効果高い
殺虫	□□□ 粒剤	I:4A	株元処理		3 kg	〇月〇日	〇〇ムシ、〇〇ムシなど対策	予察注意報が出たので予防処理	△：□□ムシの被害が発生
除草	□□□ 乳剤		畦間処理		400ml を水 100㍓に希釈	〇月〇日	□□□草が多いので	圃場の〇〇側左半分が多発生した	△：□□草が残る
殺菌	□□□ 水和剤		散布	800 倍	300 ㍓	〇月〇日	〇〇病の防除	1 週間ほど天候がぐずつき、株元が変色している	×：効果低い
植物調整	□□□□□		散布	50 倍		〇月〇日 開花当日	着果促進	曇天であったが、着果良好	○：効果高い
殺虫 殺菌	□□油剤		土壌灌注		20 ㍓	〇月〇日	〇〇センチウ、 〇〇病の防除	一昨年の栽培で多発生。前作は□□□を栽培。	○：かなり発生低下

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。

